

食品安全委員会の運営について（令和7年7月～令和7年9月）

1. 食品安全委員会の開催

7月：第989回・990回・991回・992回・993回（5回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（5品目）

動物用医薬品（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・マイコプラズマ・シノビエ感染症凍結乾燥生ワクチン（シード）（ボックスオン Ms 生ワクチン）（7/1） ・いのしし用の国産豚熱経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性（7/22）
遺伝子組換え食品等（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウ目害虫抵抗性ワタ MON15947 系統（食品）（7/15） ・チョウ目害虫抵抗性ダイズ MON94637 系統（食品）（7/15） ・チョウ目害虫抵抗性ダイズ MON94637 系統（飼料）（7/15）

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（9品目）

農薬（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・メピコートクロリド（7/1） <u>ADI を 0.3 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.3 mg/kg 体重と設定。</u> ・カルベンダジム、チオファネートメチル及びベノミル（7/8） <u>グループ ADI を 0.025 mg/kg 体重/日、一般の集団に対するグループ ARfD を 0.14 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するグループ ARfD を 0.1 mg/kg 体重と設定。カルベンダジムの ADI を 0.025 mg/kg 体重/日、一般の集団に対する ARfD を 0.14 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する ARfD を 0.1 mg/kg 体重と設定。チオファネートメチルの ADI を 0.08 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.25 mg/kg 体重と設定。ベノミルの ADI を 0.029 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.28 mg/kg 体重と設定。</u> ・オキサゾスルフィル（7/22） <u>ADI を 0.05 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.25 mg/kg 体重と設定。</u> ・スピロピジオン（7/29） <u>ADI を 0.047 mg/kg 体重/日、一般の集団に対する ARfD を 0.3 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する ARfD を 0.1 mg/kg 体重と設定。</u>
動物用医薬品（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・グレプトフェロン及びトルトラズリルを有効成分とする豚の注射剤（フォーセリス注射液）（7/22）

	<p><u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられた。</u></p> <p>・ケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤（ケトフィス）（7/22）</p> <p><u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられた。</u></p>
飼料添加物（2品目）	<p>・グアニジノ酢酸（7/8）</p> <p><u>飼料添加物として適切に使用される限りにおいて、ADIを特定する必要はないと考えられた。</u></p> <p>・グアニジノ酢酸を有効成分とする飼料添加物（7/8）</p> <p><u>飼料添加物として適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられた。</u></p>
農薬及び動物用医薬品（1品目）	<p>・イミダクロプリド（7/15）</p> <p><u>ADIを0.057 mg/kg体重/日、ARfDを0.077 mg/kg体重と設定。</u></p>

（3）その他

- ・食品安全モニターからの随時報告について（令和6年4月～令和7年3月分）（7/1）
- ・令和7年度食品健康影響評価技術研究二次公募課題（案）について（7/8）
- ・旧農薬専門調査会で調査審議されていた農薬の取扱いについて（7/15）
- ・食品安全委員会の運営（令和7年4月～令和7年6月）について報告（7/22）

8月：第994回・995回（2回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（8品目）

農薬（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・シアナジン（8/5） ・シハロホップブチル（8/5） ・プロマシル（8/5） ・メタミトロン（8/5）
遺伝子組換え食品等（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・Bacillus subtilis NTI06 (pHYT2MPM) 株を利用して生産されたマルトースホスホリラーゼ（8/5） ・高オレイン酸含有ダイズ DP-305423-1 並びに除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ 44406 系統の掛け合わせ品種（8/5） ・チョウ目害虫抵抗性及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤

	<p>耐性ダイズ (COR23134) (食品) (8/5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョウ目害虫抵抗性及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズ (COR23134) (飼料) (8/5)
--	---

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件 (6 品目)

<p>農薬及び動物用医薬品 (1 品目)</p>	<p>・フィプロニル (8/26)</p> <p><u>ADI を 0.00019 mg/kg 体重/日、ARfD を 0.02 mg/kg 体重と設定。</u></p>
<p>添加物 (5 品目)</p>	<p>・亜硫酸ナトリウム、次亜硫酸ナトリウム、二酸化硫黄、ピロ亜硫酸カリウム、ピロ亜硫酸ナトリウム、亜硫酸水素アンモニウム水 (8/26)</p> <p><u>グループとしての ADI を二酸化硫黄として 0.71 mg/kg 体重/日と設定。</u></p>

(3) その他

- ・食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題 (令和 8 年度 (案) について (8/26))
- ・令和 7 年度食品安全確保総合調査課題 (案) について (8/26)

9 月 : 第 996 回・997 回・998 回 (3 回)

(1) 食品健康影響評価の要請案件 (9 品目)

<p>農薬 (7 品目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イソチアニル (9/30) ・チオベンカルブ (9/30) ・バリダマイシン (9/30) ・ピラクロストロビン (9/30) ・フェナザキン (9/30) ・ボスカリド (9/30) ・メトブロムロン (9/30)
<p>遺伝子組換え食品等 (1 品目)</p>	<p>・pLps 株を利用して生産されたリパーゼ (9/9)</p>
<p>肥料 (1 品目)</p>	<p>・けい酸加里肥料</p>

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件 (1 1 品目)

<p>農薬 (2 品目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チアジニル (9/9) <u>ADI を 0.04 mg/kg 体重/日、ARfD を 1.5 mg/kg 体重と設定した。</u> ・メプロニル (9/9)
------------------	--

	<p>ADI を 0.05 mg/kg 体重/日と設定し、ARfD は設定する必要がないと判断した。</p>
<p>動物用医薬品（1品目）</p>	<p>・動物用ワクチンの添加剤として使用する成分（大腸菌 J5 由来成分）（9/2） <u>動物用ワクチンの添加剤として使用される限りにおいて、人への健康影響は無視できる程度と考えられた。</u></p>
<p>遺伝子組換え食品等（7品目）</p>	<p>・ <i>Trichoderma reesei</i> RF8694 株を利用して生産されたフィターゼ（9/2） <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成 16 年 5 月 6 日食品安全委員会決定）に基づき又は準用し食品健康影響評価を実施した結果、組換え体由来の新たな有害物質が生成され、肉、乳、卵等の畜水産物中に移行する可能性、遺伝子組換えに由来する成分が畜水産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性及び当該成分が家畜等の代謝系に作用し、新たな有害物質が産生する可能性はないと考えられることから、改めて「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物に関する食品健康影響評価指針」に準じて評価を実施する必要はなく、当該飼料添加物を摂取した家畜及び養殖水産動物に由来する畜水産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p> <p>・除草剤グリホサート、グルホシネート及びジカンバ耐性テンサイ KWS20-1 系統（食品）（9/2） <u>「遺伝子組換え食品（種子植物）に関する食品健康影響評価指針」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p> <p>・除草剤グリホサート、グルホシネート及びジカンバ耐性テンサイ KWS20-1 系統（飼料）（9/2） <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）に関する食品健康影響評価指針」に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p> <p>・ VAL-No. 6 株を利用して生産された L-バリン（9/2） <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物に関する食品健康影響評価指針」の第 1 章総則第 2「目的及び対象となる添加物」に規定する「遺伝子組換え体と同等の遺伝子構成を持つ生細胞が自然界に存在する場合」に該当する微生物を利用して製造されたものであることから、食品健康影響評価は必要ないと判断した。</u></p> <p>・ DHA 産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ（NS-</p>

	<p>B50027-4) (9/9) <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき食品健康影響評価を実施した結果、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）に関する食品健康影響評価指針」に準じて食品健康影響評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜及び養殖水産動物に由来する畜水産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p> <p>・ ML18456 株を利用して生産したカンタキサンチン (9/9) <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性確認の考え方」（「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物に関する食品健康影響評価指針」別添）を準用して評価を行った結果、当該飼料添加物を摂取した家畜・水産動物に由来する畜水産物の安全上の問題はないものと判断し、「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物に関する食品健康影響評価指針」による評価は必要ないと判断した。</u></p> <p>・ NGX 株を利用して生産されたキシラナーゼ (9/30) <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物に関する食品健康影響評価指針」（平成 16 年 3 月 25 日食品安全委員会決定）に基づき、導入遺伝子の供与体、導入される塩基配列が明らかであること等の導入遺伝子の安全性、導入遺伝子から産生されるタンパク質の毒性及びアレルギー誘発性等について確認した結果、従来の添加物と比較して新たに安全性を損なうおそれのある要因は認められなかった。したがって、「NGX 株を利用して生産されたキシラナーゼ」は、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u></p>
<p>農薬及び動物用医薬品 (1 品目)</p>	<p>・ イソプロチオラン (9/9) <u>ADI を 0.1 mg/kg 体重/日、一般の集団に対する ARfD を 0.5 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する ARfD を 0.12 mg/kg 体重と設定した。</u></p>

2. 専門調査会等の運営（全 24 回）

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
農薬第一	3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ クロチアニジン (7/28、9/29) ・ ジノテフラン (7/28) ・ スルホスルフロン (9/1) ・ チアメトキサム (9/29)
農薬第二	1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニトラピリン (9/5)
農薬第三	2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピペロニルブトキシド (8/6)

		・ベンゾピシクロン (9/25)
農薬第四	1回	・ペンチオピラド (8/1)
農薬第五	3回	・エチプロール (7/24、8/27、9/26) ・アラクロール (9/26)
動物用医薬品	1回	・いのしし用の国産豚熱経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性 (8/4)
微生物・ウイルス	1回	・鶏肉中のカンピロバクタージェジュニ/コリによる健康影響 (8/21)
かび毒・自然毒等専門調査会	2回	・オクラトキシン A (7/16、9/29)
遺伝子組換え食品等	3回	・チョウ目害虫抵抗性ダイズ MON94637 系統 (食品・飼料) (7/31) ・除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズ MON94313 系統 (食品・飼料) (7/31) ・チョウ目害虫抵抗性ワタ MON15947 系統 (食品) (7/31) ・チョウ目害虫抵抗性及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズ (COR23134) (食品・飼料) (8/27) ・ <i>Bacillus subtilis</i> NTI06 (pHYT2MPM) 株を利用して生産されたマルトースホスホリラーゼ (8/27) ・高オレイン酸含有ダイズ DP-305423-1 並びに除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ 44406 系統の掛け合わせ品種 (9/24) ・pLps 株を利用して生産されたリパーゼ (9/24)
肥料・飼料等	2回	・たん白質の加水分解により製造された L-イソロイシンを原体とする飼料添加物 (7/16) ・L-カルニチン (7/16) ・L-カルニチンを有効成分とする飼料添加物 (9/10)
栄養成分関連添加物ワーキンググループ	1回	・グルコン酸銅 (8/4)
薬剤耐性菌に関するワーキンググループ	1回	・家畜に使用するキノロン系合成抗菌剤に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価について (9/8)
食事由来の化学物質のばく露評価ワーキンググループ	2回	・国内外のばく露評価の現状と課題について (7/2、9/24)
ビスフェノール A ワーキンググループ	1回	・令和7年度食品安全確保総合調査 (ビスフェノール A に係る国際機関等の評価及び科学的知見の情報収集並びに整理) 第1回検討会の結果報告 (9/11)

3. 意見交換会の開催等

(1) 講師派遣 (全7回、うち委員5回)

開催日	開催地	講演会名	依頼者	対象者
-----	-----	------	-----	-----

7/7	神奈川県	横浜薬科大学食品安全性学特別講義 「食品安全委員会における食品健康影響評価の実際」 (浅野委員)	横浜薬科大学	大学生
7/31	東京都	食品安全行政担当者研修(トレーナーコース) 「信頼を獲得するためのコミュニケーション」 (松永委員)	農林水産省	地方農政局職員
8/7	東京都	東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻講義 「食品安全行政の枠組みと食品安全委員会の役割」 (事務局)	東京大学	大学院生
8/8	群馬県	令和7年度食品安全講演会 「知って防ごう!食中毒」 (山本委員長)	前橋市	一般消費者
8/8	愛知県	食品衛生月間特別講演会 「食品のリスクとその評価」 (頭金委員)	岡崎市	一般消費者、食品関係事業者
8/20	東京都	水道水、ミネラルウォーター等のPFAS(PFOS及びPFOA)規制に関するセミナー 「PFAS(PFOSおよびPFOA)のリスク評価のポイント」 (祖父江委員)	公益財団法人食の安全・安心財団	食品関係事業者
9/30	福島県	中央畜産技術研修会「畜産物安全行政」 「食品安全委員会におけるリスク評価について」 (事務局)	農林水産省	国、地方公共団体、畜産関係団体、農協等生産者団体等職員

(2) 意見交換会等(全1回)

開催日	内容	共催団体	対象
9/12	令和7年度食のリスクコミュニケーター研修 「食の安全におけるリスクコミュニケーションとは?」 (松永委員)	埼玉県	管理栄養士・栄養士、調理師、保育士、教諭等

(3) 学会等ブース出展(全2回)

開催日	開催地	学会名
7/2~4	沖縄県	第52回日本毒性学会学術年会
9/18~	神奈川	第46回日本食品微生物学会学術総会

19	県	
----	---	--

(4) 親子イベント等関係省庁との連携 (全1回)

開催日	開催地	イベント名	対象	共催団体
9 /26～ 28	東京都	GOOD LIFE フェア 2025 「食べものの安全ってなあに？親子で学ぼう！体験しよう！」をテーマにブース出展	児童 一般消費者	消費者庁、 厚生労働省、農林水産省、経済産業省

4. 情報提供

(1) Facebook、ブログ

健康に被害を及ぼすおそれのある案件、国民の関心が高い案件についての機動的な情報提供。

■ 7月：16記事

閲覧数 (Facebook) 33,659 人/月、 (ブログ) 3,503 人/月

投稿日	記事内容
7 / 1	食品健康影響評価を行う案件を募集します 【食品安全モニターの皆様からの報告を公表しました】
7 / 2	7/1 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
7 / 4	【食品安全委員会 6/30～7/4 の公表及び更新事項】
7 / 8	7/8 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
7 / 11	【食品安全委員会 7/7～7/11 の公表及び更新事項】
7 / 14	【大学、試験研究機関等に属する研究者の方向けのお知らせ】
7 / 15	7/15 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
7 / 17	夏もノロウイルス食中毒に注意！
7 / 18	【食品安全委員会 7/14～7/18 の公表及び更新事項】
7 / 22	「有機フッ素化合物 (PFAS) 」評価書に関する Q&A を更新しました。
7 / 23	7/22 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
7 / 25	【食品安全委員会 7/22～7/25 の公表及び更新事項】
7 / 29	7/29 に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
7 / 30	食中毒を防ぐために、肉は中までしっかり加熱しましょう！
7 / 31	現在、食品安全委員会事務局では、以下の業務を担当する技術参与を募集しています。

■ 8月：9記事

閲覧数 (Facebook) 30,052 人/月、 (ブログ) 3,610 人/月

投稿日	記事内容
8 / 1	【食品安全委員会 7/28～8/1 の公表及び更新事項】
8 / 4	暑い季節の食中毒予防。黄色ブドウ球菌に注意！

8/5	8/5に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
8/8	【食品安全委員会 8/4～8/8 の公表及び更新事項】
8/15	【食品安全委員会 8/12～8/15 の公表及び更新事項】
8/20	【アニサキスによる食中毒を防ぐために】
8/22	【食品安全委員会 8/18～8/22 の公表及び更新事項】
8/27	8/26に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
8/29	【食品安全委員会 8/25～8/29 の公表及び更新事項】

■ 9月：14 記事

閲覧数 (Facebook) 37,513 人/月、 (ブログ) 3,291 人/月

投稿日	記事内容
9/2	フグは稚魚でも食べないでください。
9/3	9/2に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
9/5	【食品安全委員会 9/1～9/5 の公表及び更新事項】
9/8	\Informationsbeschaffung / 食品安全委員会事務局では、情報収集 (ドイツ語・英語) を担当する技術参与を募集しています。
9/9	9/9に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
9/12	【食品安全委員会 9/8～9/12 の公表及び更新事項】
9/16	【食品安全委員会事務局 技術参与 (非常勤一般職国家公務員) 募集】 【大学、試験研究機関等に属する研究者の方向けのお知らせ】令和8年度研究事業の課題公募 (募集締切: 令和7年10月15日 (水) 17:00) 令和7年度調査事業の公告開始 (1課題) について (期間: 10月9日 (木) 12:00 まで)
9/17	ヒスタミン食中毒予防のため魚の温度管理の徹底を!
9/18	肉の低温調理のポイント: 安全でおいしく料理するために!
9/19	【食品安全委員会 9/16～9/19 の公表及び更新事項】
9/26	食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission」Vol. 13, No. 3を公開しました。 "Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan" Volume 13, Issue 3 has just been published.

(2) X (旧 Twitter)

食中毒の防止法等、一般消費者にとって身近に関心 (共感) の高いものや、タイムリーなもの、緊急性の高いものを中心に情報発信。

■ 7月：6 記事

フォロワー 3,532 人

投稿日	記事内容
7/1	食品安全委員会は、「自ら評価」の案件を公募しています。令和7年度は7月31日 (木) 締め切りです! 自ら評価及び公募について詳しくはリンクからご確認ください。

	日頃の生活の中で気が付いた #食品安全 に関する課題や問題点についての提案・報告を頂く「食品安全モニター」からの報告を取りまとめました。 #健康食品、#リスクコミュニケーション などについて関係省庁等からの回答も掲載しています。
7/17	ノロウイルス食中毒の報告は夏も多いです。ノロウイルスの感染経路は多岐に渡ります。特に食材を扱う方は食中毒を防ぐための対策が重要です。食品安全委員会ではノロウイルスによる食中毒を防ぐために様々な情報を提供していますので、是非ご活用ください。
7/22	食品安全委員会は、2024年6月に「有機フッ素化合物（PFAS）」に関する食品健康影響評価の結果を公表しています。今般、評価のプロセスがより分かりやすくなるよう、Q&Aを更新して公表しました。是非ご覧ください。
7/30	ハンバーグ、焼肉、唐揚げなど、肉料理は好きですか？レアや生の肉には食中毒のリスクも??防ぐためには十分な加熱が必要です。食品安全委員会などでは、適切な加熱を含め食中毒予防のための様々な情報を提供しています。是非ご活用ください。 食中毒予防のポイント(BBQなど)
7/31	現在、食品安全委員会事務局では、リスク評価の業務補助及び国際関連業務補助を担当する技術参与を募集しています。 あなたの専門性を生かせる仕事です。 ご応募を心よりお待ちしております。 応募資格、提出書類、勤務条件などの詳細はこちらをご覧ください。

■ 8月：2記事

フォロワー 3,618人

投稿日	記事内容
8/5	#黄色ブドウ球菌 は私たちの周りの環境に広く存在し、特に手指の傷口に多くいます。この菌の毒素は熱に強く、加熱しても効果はありません。傷がある手で調理しないなど、食中毒菌を「つけない」こと、作った料理は早めに食べきるなど「ふやさない」ことが大切です。
8/20	アニサキスが寄生している生鮮魚介類を生や、不十分な冷凍・加熱で食べると、食中毒を引き起こします。アニサキスを死滅させるには、冷凍と加熱が最も有効。食品安全委員会はアニサキスのリスクプロファイルを公表しています。食中毒を防ぐために是非ご活用ください。

■ 9月：5記事

フォロワー 3,653人

投稿日	記事内容
9/2	💀フグは稚魚も食べないで💀フグには、テトロドトキシンという毒性物質があり、フグの稚魚にもテトロドトキシンが蓄積するという報告があります。また、フグは魚種によって食用可能な部位が異なり、素人判断の調理は危険です。フグは稚魚でも食べないでください。
9/8	\Informationsbeschaffung / 食品安全委員会事務局では、情報収集（ドイツ語・英語）を担当する技術参

	与を募集しています。その他にも複数の職種を募集中です。詳しくはリンク先から。
9/16	<p>現在、食品安全委員会事務局では、リスク評価の業務補助及び情報収集を担当する技術参与各1名を募集しています。</p> <p>あなたの専門性を生かせる仕事です。</p> <p>ご応募を心よりお待ちしております。</p> <p>応募資格、提出書類、勤務条件などの詳細はこちらをご覧ください。</p>
9/17	<p>学校給食が原因のヒスタミンの集団食中毒の事例がありました。ヒスタミンは、サバ、マグロ、イワシ等が常温で放置されると生成します。また、加熱しても分解しません。魚は冷蔵または冷凍するなど温度管理を徹底し、鮮度の低下した魚を食べないようにしましょう。</p>
9/18	<p>肉の低温調理について、ネット上で様々な方法やレシピが紹介されています。火の通り具合は見た目ではわかりません。安全な調理のために、中心部を調理用温度計など確認して、適切な温度と時間で十分加熱することが重要です。食品安全委員会の動画などもご覧ください。</p>

食品健康影響評価の審議状況

2025.9.30現在

区分	諮問案件						自ら評価
	要請件数 注1、2)	うち 令和7年 度分	審議中 注3)	意見 募集中 注4)	評価終了 件数	うち 令和7年 度分	評価終了 注5)
添加物	318		2		316	5	
農薬	1498	39	172	2	1324	34	
うちポジティブリスト関係	546		129	1	416	3	
うち清涼飲料水	25				25		
うち飼料中の残留農薬基準	59		16		43		
動物用医薬品	684	6	9	2	673	10	
うちポジティブリスト関係	140		7	1	132		
器具・容器包装	24				24		
汚染物質等	68				68		3
うち清涼飲料水	52				52		
微生物・ウイルス	22				22		2
プリオン	72		8		64		14
かび毒・自然毒	10		1		9		5
遺伝子組換え食品等	419	12	18	2	399	14	
新開発食品	91				91		3
肥料・飼料等	340	4	13	1	326	7	
うちポジティブリスト関係	142		10		132	1	
薬剤耐性菌	75	1	8	1	66		1
高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するWG	1				1		
食品による窒息事故に関するWG	1				1		
放射性物質の食品健康影響に関するWG	2				2		
アレルギーを含む食品に関するWG							1
栄養成分添加物WG	3		1		2		
香料WG	7				7		
有機フッ素化合物(PFAS)WG	2				2		1
ビスフェノールA WG	1		1				
その他(指定成分、アルミニウム等)	2				2		1
合計	3640	62	233	8	3399	70	31

- (注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。
 2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。
 3 「審議中」欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。
 4 「意見募集中」欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。
 5 自ら評価案件については、「評価終了」の欄では、複数省庁に答申したものの、答申が複数案件となったもの等について、その数を記入しているものもある。
 6 「飼料中の残留農薬基準」欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。
 7 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会(H18.3.6～H27.8.24)で審議したものも含む。

委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2025年9月30日現在)

参考2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 テトラサイクリン系抗生物質（薬剤耐性菌）【薬事法】（水産）※	1
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 マクロライド系抗生物質（薬剤耐性菌）【薬事法】（水産）※	1
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 スルホンアミド系合成抗菌剤（薬剤耐性菌）【薬事法】（水産）※	1
2004/10/29	農	薬剤耐性菌 アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ピクシリン）【再審査】■	1
2004/10/29	農	薬剤耐性菌 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ネオマイゾン注射液及びバシット注射液）【再審査】■	1
2005/2/14	厚	農薬 ジコホールー	1
2005/8/5	農	肥料・飼料等 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤（動物用シノラル液）【再審査】■	1
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/12	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆	1
2007/1/12	厚	農薬 ピノキサデン☆	1
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 クロルマジノン☆	1
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロンメチル☆	1
2007/6/5	厚	農薬 スルフェントラゾン☆	1
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン〈一部☆〉	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆	1
2007/12/18	厚	農薬 イソキサジフェンエチル☆	1
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆	1
2008/3/11	厚	農薬 プロディファコウム☆	1
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆	1
2008/3/25	厚	農薬 スルホスルフロン☆	1
2008/3/25	厚	農薬 ピリデート☆	1
2008/3/25	厚	農薬 フッ化スルフリル☆	1
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆	1
2008/7/8	厚	農薬 クロジナホッププロパルギル☆	1
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆	1
2009/2/9	厚	農薬 オキシデメトンメチル☆	1
2009/2/9	厚	農薬 ジクロラン☆	1
2009/2/9	厚	農薬 ジノカップ☆	1
2009/2/9	厚	農薬 フェンプロピモルフ☆	1
2009/2/9	厚	農薬 ベナラキシル☆	1
2009/2/9	厚	農薬 ホレート☆	1
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロルボス及びナレド☆	2
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 アスタキサンチン (対象外物質) ☆	1
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル (対象外物質) ☆	1
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 β-カロテン (対象外物質) ☆	1
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 酒石酸 (対象外物質) ☆	1
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 トウガラシ色素 (対象外物質) ☆	1
2010/2/16	厚	肥料・飼料等及び農薬 乳酸 (対象外物質) ☆	2
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 マリーゴールド色素 (対象外物質) ☆	1
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 メナジオン (対象外物質) ☆	1
2010/2/16	厚	肥料・飼料等 レチノール (対象外物質) ☆	1
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆	1
2010/9/13	厚	農薬 トリクロピル☆	1
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆	1
2010/11/12	厚	農薬 ジフルフェンゾピル☆	1
2010/11/12	厚	農薬 ジメチピン☆	1
2010/11/12	厚	農薬 テルブホス☆	1
2010/11/12	厚	農薬 トリアスルフロン☆	1
2010/11/12	厚	農薬 パラチオン☆	1
2010/11/12	厚	農薬 ピンクロゾリン☆	1
2010/11/12	厚	農薬 モノクロトホス☆	1
2010/11/15	農	農薬 テルブホス (飼料中) ☆	1
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆	2
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 メトプレン☆	2
2010/12/10	農	農薬 メトプレン (飼料中) ☆	1
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルファン☆	1
2011/2/10	厚	農薬 クロリムロンエチル☆	1
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロンメチル☆	1
2011/3/25	厚	農薬 ジスルホトン☆	1
2011/3/25	厚	農薬 プロモキシニル☆	1
2011/4/19	厚	添加物 カルミン-	1
2011/4/25	農	農薬 プロモキシニル (飼料中) ☆	1
2011/9/22	厚	農薬 2,4-DB☆	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆	1
2011/9/22	厚	農薬 アミノピラリド☆	1
2011/9/22	厚	農薬 イオドスルフロンメチル☆	1
2011/9/22	厚	農薬 クロルスルフロン☆	1
2011/9/22	厚	農薬 シクロキシジム☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2011/9/22	厚	農薬 ジフェンゾコート☆	1
2011/9/22	厚	農薬 テクナゼン☆	1
2011/9/22	厚	農薬 ニコスルフロン☆	1
2011/9/22	厚	農薬 マレイン酸ヒドラジド☆	1
2011/9/22	厚	農薬 メトスルフロンメチル☆	1
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆	1
2011/10/11	厚	農薬 トリベヌロンメチル☆	1
2011/10/11	厚	農薬 ピクロラム☆	1
2011/10/11	厚	農薬 フェノキサプロップエチル☆	1
2011/10/11	厚	農薬 ブタフェナシル☆	1
2011/10/11	厚	農薬 フルオメツロン☆	1
2011/10/11	厚	農薬 アトラジン☆	1
2011/10/11	農	農薬 アトラジン (飼料中) ☆	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆	1
2011/11/18	厚	農薬 フェノキシカルブ☆	1
2011/11/18	厚	農薬 プロスルフロン☆	1
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症 (BSE) 対策の見直し (オランダ) ②&※	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン (飼料中) ☆	1
2012/1/23	農	農薬 ホレート (飼料中) ☆	1
2012/1/23	農	農薬 シハロトリン (飼料中) ☆	1
2012/1/23	農	農薬 ジクロルボス及びナレド (飼料中) ☆	1
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロン☆	1
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆	1
2012/5/21	厚	農薬 トリデモルフ☆	1
2012/5/21	厚	農薬 フラムプロップメチル☆	1
2012/7/18	厚	農薬 テフルトリン☆	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆	1
2012/8/21	厚	農薬 フルスルファミド☆	1
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル (飼料中) ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルフェンビンホス (飼料中) ☆	1
2013/1/22	農	農薬 シマジン (飼料中) ☆	1
2013/1/22	農	農薬 パラチオン (飼料中) ☆	1
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆	1
2013/1/30	厚	農薬 シマジン☆	1
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆	1
2013/3/12	厚	農薬 エテホン☆	1
2013/3/12	厚	農薬 オキサミル☆	1
2013/3/12	厚	農薬 カルフェントラゾンエチル☆	1
2013/3/12	厚	農薬 クロリダゾン☆	1
2013/3/12	厚	農薬 ターバシル☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2013/3/12	厚	農薬 ピリミホスメチル☆	1
2013/3/12	厚	農薬 フルシトリネート☆	1
2013/3/12	厚	農薬 ホルクロールフェニユロン☆	1
2013/3/12	厚	農薬 メタミトロン☆	1
2013/3/12	厚	農薬 メチダチオン☆	1
2013/3/12	厚	農薬 レナシル☆	1
2013/3/13	農	農薬 ピリミホスメチル (飼料中) ☆	1
2013/4/2	厚	プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について※	1
2013/6/10	農	農薬 γ-BHC (飼料中) ☆	1
2013/6/10	農	農薬 ジメトエート (飼料中) ☆	1
2013/6/10	農	農薬 メチダチオン (飼料中) ☆	1
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆	1
2013/6/12	厚	農薬 イマザキン☆	1
2013/6/12	厚	農薬 ジウロン☆	1
2013/6/12	厚	農薬 シプロコナゾール☆	1
2013/6/12	厚	農薬 ジメトエート☆	1
2013/6/12	厚	農薬 フルキンコナゾール☆	1
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■〈一部〉☆	2
2013/8/20	厚	農薬 ノニルフェノールスルホン酸銅■〈一部〉☆	2
2013/8/20	厚	農薬 イマザモックスアンモニウム塩☆	1
2013/8/20	厚	農薬 ヒメキサゾール☆	1
2013/8/20	厚	農薬 メトリブジン☆	1
2013/8/20	厚	農薬 リニユロン☆	1
2013/8/20	厚	肥料・飼料等及び農薬 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆	2
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/5/14	厚	プリオン スイスから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/5/14	厚	プリオン リヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症 (BSE) 国内対策の見直し&※	1
2015/12/18	厚→消	プリオン 牛海綿状脳症 (BSE) 国内対策の見直し&※	1
2017/4/19	厚	農薬 プレトリン☆	1
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛の肉及び内臓※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマトTU-IP105B-1 (食品) ■	1
2017/12/20	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマトTU-IP105B-1 (飼料) ■	1
2018/7/4	農	薬剤耐性菌 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤 (エコノアプレミックス1%及びエコノアプレミックス10%) ※再審査■	1
2019/2/27	農	薬剤耐性菌 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤 (アモスタックLA注) ※再審査■	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A■	1
2022/4/21	厚	農薬及び動物用医薬品 シペルメトリン■	1
2022/12/1	厚	添加物 亜塩素酸水■	1
2022/12/14	厚	農薬 チオジカルブ及びメソミル☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2022/12/14	厚	農薬及び動物用医薬品 クロチアニジン■	2
2022/12/14	農	農薬 アセタミプリド※	1
2022/12/14	農	農薬及び動物用医薬品 クロチアニジン※	1
2022/12/14	農	農薬及び動物用医薬品 ジノテフラン※	1
2022/12/14	農	農薬 チアメトキサム※	1
2022/12/14	農	動物用医薬品 クロチアニジンとd-d-T80-プラレトリンを有効成分とする畜舎噴霧剤（ヌーベルショット、トリプルアクセル）■	1
2023/1/10	厚	遺伝子組換え食品等 Trichoderma reesei RF6197株を使用して生産されたペクチナーゼ■	1
2023/1/10	厚	遺伝子組換え食品等 Trichoderma reesei RF6201株を使用して生産されたペクチナーゼ■	1
2023/1/25	農	農薬 グリホサート※	1
2023/3/22	農	農薬 フサライド※	1
2023/8/31	厚	農薬 ジアフェンチウロン〈一部☆〉	2
2023/11/21	厚	農薬 フルペンチオフェノックス■	1
2024/2/7	厚	遺伝子組換え食品等 Saccharomyces cerevisiae NS470 (CBS 615.94) 株を利用して産生されたα-ガラクトシダーゼ■	1
2024/2/21	厚	農薬 ペンチオピラド■	1
2024/2/28	厚	かび毒・自然毒 食品中のオクラトキシンAの規格基準の設定についてー	1
2024/7/24	農	農薬 ベンゾビシクロン※	1
2024/8/13	消	遺伝子組換え食品等 Bacillus subtilis NTI06 (pHYT2PsBG) 株を利用して生産されたβ-グルコシダーゼ■	1
2025/1/8	消	遺伝子組換え食品等 Trichoderma reesei RF6199株を利用して生産されたペクチナーゼ■	1
2025/2/10	消	遺伝子組換え食品等 JPAo013株を利用して生産されたホスホリパーゼ■	1
2025/2/10	消	遺伝子組換え食品等 除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズMON94313系統（食品）■	1
2025/2/10	農	遺伝子組換え食品等 除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズMON94313系統（飼料）■	1
2025/3/5	農	農薬 アラクロール※	1
2025/3/18	消	その他（WG等） グルコン酸銅■	1
2025/4/16	消	農薬 アセタミプリドー	1
2025/4/16	消	農薬 アラクロールー	1
2025/4/16	消	農薬 グリホサートー	1
2025/4/16	消	農薬 チアメトキサムー	1
2025/4/16	消	農薬 フサライドー	1
2025/4/16	消	農薬 ベンゾビシクロンー	1
2025/4/16	消	農薬 エチプロールー	1
2025/4/16	消	農薬及び動物用医薬品 ジノテフラン■	1
2025/4/16	農	農薬 エチプロール※	1
2025/5/21	農	薬剤耐性菌 キノロン系合成抗菌剤が動物用医薬品として家畜に投与された場合に選択される薬剤耐性菌■	1
2025/6/11	農	肥料・飼料等 L-カルニチンを有効成分とする飼料添加物■	1
2025/6/19	消	農薬 シアン化水素☆	1
2025/6/19	消	農薬 ニトラピリン■	1
2025/7/8	消	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性ダイズMON94637系統（食品）■	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2025/7/8	農	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性ダイズMON94637系統（飼料）■	1
2025/7/30	消	農薬 シアナジン※	1
2025/7/30	消	農薬 シアナジンー	1
2025/7/30	消	農薬 シハロホップブチルー	1
2025/7/30	農	農薬 シハロホップブチル※	1
2025/7/30	農	農薬 ブロマシル※	1
2025/7/30	消	農薬 ブロマシルー	1
2025/7/30	消	農薬 メタミトロン※	1
2025/7/30	農	農薬 メタミトロンー	1
2025/7/31	農	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズ（GOR23134）■	1
2025/8/1	消	遺伝子組換え食品等 Bacillus subtilis NT106（pHYT2MPM）株を利用して生産されたマルトースホスホリラーゼ■	1
2025/8/1	農	遺伝子組換え食品等 高オレイン酸含有ダイズDP-305423-1並びに除草剤アシルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ44406系統の掛け合わせ品種■	1
2025/8/1	消	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズ（GOR23134）（食品）■	1
2025/9/3	消	遺伝子組換え食品等 pLps株を利用して生産されたリパーゼ■	1
2025/9/24	消	農薬 イソチアニル■	1
2025/9/24	消	農薬 チオベンカルブー	1
2025/9/24	消	農薬 バリダマイシン■	1
2025/9/24	消	農薬 ピラクロストロビン■	1
2025/9/24	消	農薬 フェナザキン■	1
2025/9/24	消	農薬 ポスカリド■	1
2025/9/24	消	農薬 メトプロムロン■	1
2025/9/24	農	肥料・飼料等 けい酸加里肥料■	1

233

（注）

－：食品安全基本法第24条第1項案件（企業申請を含まない）

☆：ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件

※：食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件

■：食品安全基本法第24条第1項に基づく意見聴取案件かつ企業申請案件（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）

◎：食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価案件

Ⅱ 専門調査会における審議結果（案）について意見募集を行っているもの

募集期間	対象となる審議結果（案）	
2025/7/23～2025/8/21	■ ホスホマイシンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミスインS（静注用）） 【再審査】	1
2025/8/6～2025/9/4	■ NGX株を利用して生産されたキシラナーゼ	1
2025/8/27～2025/9/25	■ たん白質の加水分解により製造されたL-イソロイシンを原体とする飼料添加物	1
2025/8/27～2025/9/25	■ チョウ目害虫抵抗性ワタMON15947系統（食品）	1
2025/8/27～2025/9/25	※ いのしし用の国産豚熱経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性	1
2025/9/10～2025/10/9	☆ ピペロニルブトキシド	2
2025/9/10～2025/10/9	☆ ピペロニルブトキシド	1

8

（注）

－：食品安全基本法第24条第1項案件（企業申請を含まない）

☆：ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件

※：食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件

■：食品安全基本法第24条第1項に基づく意見聴取案件かつ企業申請案件（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）

◎：食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価案件

III 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和7年度）

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2025/4/4	消	農薬 イソシクロセラム■	1
2025/4/4	消	農薬 シクロピラニル■	1
2025/4/9	消	肥料・飼料等 アセチルシステイン■	1
2025/4/9	農	肥料・飼料等 アセチルシステインを有効成分とする飼料添加物■	1
2025/4/18	農	動物用医薬品 動物用ワクチンの添加剤として使用する成分（L-グルタミン酸カリウム、マルトース）※	2
2025/4/22	消	肥料・飼料等及び農薬 オキシロニック酸■	2
2025/4/23	消	農薬 チフルザミド■	1
2025/4/23	消	農薬 ブタクロール■	1
2025/4/23	消	遺伝子組換え食品等 半矮性トウモロコシMON94804系統（食品）－	1
2025/4/23	農	遺伝子組換え食品等 半矮性トウモロコシMON94804系統（飼料）11-1	1
2025/5/14	厚	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ（NS-B50027-4）（食品）■	1
2025/5/14	農	動物用医薬品 食品健康影響評価について<牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症混合ワクチン（シード）（キャトルマスターF P5）■	1
2025/5/14	農	動物用医薬品 豚繁殖・呼吸障害症候群生ワクチン（シード）（プリバセントPRRS20、同50、同100）■	1
2025/5/20	農	農薬 クロルベンジレート☆	1
2025/5/28	厚	農薬 クロルタールジメチル☆	1
2025/5/28	消	農薬 マンジプロパミド■	1
2025/6/4	消	肥料・飼料等 ジニトルミド☆	1
2025/6/4	消	農薬 ベンジルアデニン■	1
2025/6/4	消	農薬 スピロジクロフェン■	1
2025/6/4	農	肥料・飼料等 Trichoderma reesei RF5427株を利用して生産されたキシラナーゼを原体とする飼料添加物■	1
2025/6/4	農	肥料・飼料等 塩酸ロメフロキサシンを有効成分とする馬の点眼剤（ロメワン）（再審査）■	1
2025/6/4	農	動物用医薬品 d-クロプロステノールナトリウムを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ダルマジンシンク）■	1
2025/6/12	農	農薬 キノクラミン※	1
2025/6/12	消	農薬 キノクラミン－	1
2025/6/25	消	農薬 エスプロカルブ※	1
2025/6/25	消	農薬 エタボキサム■	1
2025/6/25	消	農薬 スピネトラム■	1
2025/6/25	消	農薬 トリフロキシストロピン■	1

III 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和7年度）

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2025/6/25	消	農薬 ピカルブトラゾクス■	1
2025/6/25	消	農薬 ポリオキシシンD亜鉛塩■	1
2025/6/26	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMON95275系統■	1
2025/6/26	農	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシMON95275系統■	1
2025/6/26	消	遺伝子組換え食品等 JPAN011株を利用して生産されたセルラーゼ■	1
2025/6/26	消	遺伝子組換え食品等 AH-No.1株を利用して生産されたL-カルノシン■	1
2025/6/26	消	遺伝子組換え食品等 ILE-No.2株を利用して生産されたL-イソロイシン■	1
2025/7/3	消	農薬 メピコートクロリド■	1
2025/7/7	農	動物用医薬品 マイコプラズマ・シノビエ感染症凍結乾燥生ワクチン（シード）（ボックスオンMS生ワクチン）■	1
2025/7/9	農	肥料・飼料等 グアニジノ酢酸を有効成分とする飼料添加物■	1
2025/7/10	消	農薬 カルベンダジム、チオファネート、チオファネートメチル及びベノミル■〈一部☆〉	2
2025/7/10	農	農薬 カルベンダジム、チオファネート、チオファネートメチル及びベノミル■〈一部☆〉	2
2025/7/16	消	農薬及び動物用医薬品 イミダクロプリド■	2
2025/7/16	農	農薬 イミダクロプリド※	1
2025/7/23	農	動物用医薬品 グレプトフェロン及びトルトラズリルを有効成分とする豚の注射剤（フォーセリス注射液）■	1
2025/7/23	農	動物用医薬品 ケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤（ケトフィス）■	1
2025/7/23	消	農薬 オキサゾスルフィル■	1
2025/8/4	消	農薬 スピロピジオン■	1
2025/8/28	厚	添加物 亜硫酸ナトリウム■	1
2025/8/28	厚	添加物 次亜硫酸ナトリウム■	1
2025/8/28	厚	添加物 二酸化硫黄■	1
2025/8/28	厚	添加物 ピロ亜硫酸カリウム■	1
2025/8/28	厚	添加物 ピロ亜硫酸ナトリウム■	1
2025/8/28	農	農薬及び動物用医薬品 フィプロニル※	1
2025/8/28	消	農薬及び動物用医薬品 フィプロニルー	1
2025/9/4	農	遺伝子組換え食品等 Trichoderma reesei RF8694株を利用して生産されたフィターゼ■	1
2025/9/4	消	遺伝子組換え食品等 VAL-No.6株を利用して生産されたL-バリン■	1
2025/9/4	消	遺伝子組換え食品等 除草剤グリホサート、グルホシネート及びジカンバ耐性テンサイKWS20-1系統（食品）■	1
2025/9/4	農	動物用医薬品 動物用ワクチンの添加剤として使用する成分（大腸菌J5株由来成分）■	1

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和7年度）

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2025/9/4	消	遺伝子組換え食品等 除草剤グリホサート、グルホシネート及びジカンバ耐性テンサイ KWS20-1系統（飼料）※	1
2025/9/11	農	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ（NS-B50027-4）（飼料）■	1
2025/9/11	農	遺伝子組換え食品等 ML18456株を利用して生産したカンタキサンチン■	1
2025/9/11	農	農薬及び動物用医薬品 イソプロチオラン※	1
2025/9/11	農	農薬 チアジニル※	1
2025/9/11	消	農薬 メプロニル■	1
2025/9/11	消	農薬及び動物用医薬品 イソプロチオランー	1
2025/9/11	消	農薬 チアジニルー	1

70

（注）

- －：食品安全基本法第24条第1項案件（企業申請を含まない）
- ☆：ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件
- ※：食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件
- ：食品安全基本法第24条第1項に基づく意見聴取案件かつ企業申請案件（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）
- ◎：食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価案件
- 11-1：食品安全基本法第11条第1項第1号案件
- 11-2：食品安全基本法第11条第1項第2号案件

IV その他（令和7年度）

通知日	通知先	件名
2025/5/14	農	家畜伝染病予防法施行規則（昭和26年農林省令第35号）の一部改正について
2025/5/14	農	家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号）第62条第1項に基づく政令指定について
2025/5/14	厚	と畜場法施行規則（昭和28年厚生省令第44号）の一部改正について
2025/6/19	農	家畜伝染病予防法施行令の一部改正について（高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザの対象家畜追加）